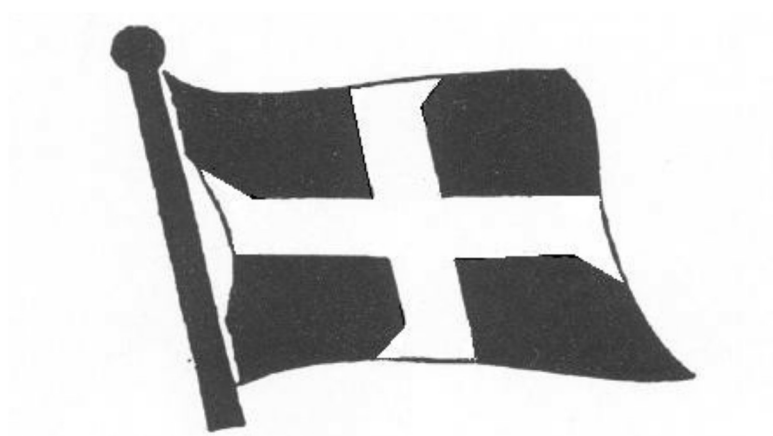


蒼穹NEWS

NO.2

関西インカレ総括号

令和元(2019)年 5 月 26 日発行



～目次～

1. 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
2. 関西インカレ結果
3. 関西インカレ詳細
4. 新入生名簿
5. 関西インカレ OB 様名簿
6. 記録会等の結果

1. 主将・女子主将・監督挨拶

主将挨拶

先日行われました関西 IC にて、男子は 44 点で総合 9 位となり、昨年からチームで目標にしてきた 40 点の目標を超えることができました。総合順位こそ昨年と同じではありませんが、昨年多くの有力選手が卒業し、今年残る選手が獲った昨年の得点が約 15 点程度であったことを考えると、44 点という得点はこの 1 年で私たちが大きく成長できたことを示す十分な結果であり、大変嬉しく思っております。

得点の内訳としても、自己ベストを更新し 5 位に食い込んだ小谷(4)、3 本目にしっかり一投を決めてランキング通り 6 点を獲ってきた大橋(4)や、関西 2 位にまでなったマイルリレー(小谷(4)-小原(4)-田中(4)-浅井(3))など、4 回生の意地も多く見られた一方で、800m と 1500m で厳しい格上との戦いに競り勝ち 12 点を獲ってきた木村(3)をはじめ、ランキングを覆し、点を獲ってきた浅井(3)、足立(2)、阪口(2)など、3 回生以下の活躍も多く見られ、来年の関西 IC も楽しみにできる結果でした。

ここまでの結果を残すことができたのは、チームの全員が、この関西 IC に本気で臨むことができたからと考えております。これまで、「一部の強い人が出る試合」「出てナンボの試合」であった関西 IC が、「チームの全員で戦いにいく試合」「点を獲ってナンボの試合」に、少しずつ変わってきました。

しかし、このチームはまだ強くなる余力を残しています。10000mW の亀田(4)や 100m の加藤(3)など、得点のチャンスがありながらも掴めず、悔しい思いをした選手もたくさんいます。これからチームとしては伊勢予選、そして七大会へと向かっていきますが、そこでは今よりもさらに力をつけた私たちの姿をご覧に入れることができるよう、部員一同さらなる研鑽を積み重ねて参る所存です。

蒼穹会の皆様におかれましては、関西 IC の 5 日間、ご多忙の中であるにも関わらず、総じて 100 名以上の方々に足を運んでいただき、熱い熱いご声援をいただきました。心より感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 三神 惇志

女子主将挨拶

5 日間にわたる関西インカレが終了いたしました。女子に関しては、「京大、京女、ダム女の 3 大学で、昨年の 4 点を越える 5 点」を目標としていました。結果はランキングを覆して得点をしてくれたものの、2 点で目標は達成できませんでした。七大戦や東大戦を戦っていく上でも、関西インカレで勝負できるようになるためにもまだまだレベルアップが必要となります。女子チーム一丸となって、一層練習に励み精進してまいります。T&F の部は 2 週にわたる長丁場となりましたが、暑い中多大なるご声援誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

京都大学陸上競技部女子主将 後藤 加奈

監督挨拶

4 月 18 日のハーフマラソンから始まった関西インカレが終了しました。男子は 44 点で総合 9 位となり、目標としていた 40 点を超える好成績を収めました。小谷(4)、浅井(3)を筆頭とした短長勢の活躍や木村(3)の 2 種目大量得点、大橋(4)の 3 位など実力者が堅実に得点してくれました。今大会は T&F の部が 2 週に渡って開催されたため予想できない部分もありましたが、最後までチーム一丸となって戦い抜いた結果だと思います。女子については中野(3)がランキングを覆して 2 点を取ったものの、目標としていた 5 点に届かず悔しい思いをしました。男女とも全て学部生による得点でしたので、今後の活躍にも期待できるかと思います。一方、出場したが結果を出せなかったり出場できなかったりと悔しい思いをした選手は悔しさをバネに力をつけてほしいと思います。

次の対校戦は、6 月末の全日本大学駅伝予選会です。近年厳しい戦いを強いられています。長距離部員を中心にチーム一丸となって挑み、目標を達成したいと思います。

最後になりましたが、5 日間の長丁場を最後まで戦い抜くことができたのは、蒼穹会の皆様の多大なるご声援のおかげでございます。連日、応援に駆けつけていただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 五十嵐 隆皓

2. 関西インカレ結果

第96回関西学生陸上競技対校選手権大会

平成 31 年 4 月 18 日(木)・ヤンマーフィールド長居付設長距離競走路
令和元年 5 月 9 日(木)、10 日(金)・西京極総合運動公園陸上競技場・補助競技場
令和元年 5 月 18 日(土)、19 日(日)・奈良市鴻ノ池陸上競技場

男子一部総合成績

第1位	関西学院大学	136点
第2位	立命館大学	123点
第3位	同志社大学	106点
第4位	大阪体育大学	92.9点
第5位	びわこ成蹊スポーツ大学	87.03点
第6位	近畿大学	70点
第7位	京都産業大学	66点
第8位	関西大学	47点
第9位	京都大学	44点
第10位	龍谷大学	35.33点
第11位	大阪大学	28.5点
第12位	大阪国際大学	7.23点

男子一部トラックの部

第1位	関西学院大学	99点
第2位	立命館大学	77点
第3位	近畿大学	70点

男子一部フィールドの部

第1位	大阪体育大学	62.9点
第2位	同志社大学	52点
第3位	立命館大学	46点

男子一部混成の部

第1位	びわこ成蹊スポーツ大学	15点
第2位	同志社大学	9点
第3位	関西学院大学	6点

男子二部総合得点

第1位	天理大学	123.5点
第2位	大阪教育大学	105点
第3位	大阪市立大学	91点

女子総合成績

第1位	立命館大学	115.83点
第2位	大阪成蹊大学	91点
第3位	園田学園女子大学	79.5点
第28位	京都大学	2点

3. 関西インカレ詳細

・第一日目 4月18日(土)

ハーフマラソン

順位	氏名	学年	大学	記録
1位	川田 信	3	関学大	1:06'44"
2位	西 慶一郎	M2	阪大	1:07'29"
3位	宮崎 勇樹	3	びスポ	1:07'31"
4位	山田 光希	4	同大	1:07'33"
5位	笹部 力	4	関大	1:07'50"
6位	片山 俊希	4	龍大	1:07'56"
7位	横山 翔	3	近大	1:07'58"
8位	重岡 慶彦	3	同大	1:08'08"
19位	原田麟太郎	4	京大	1:11'56"

関西インカレ最初の種目となるハーフマラソンには原田(4)が出場した。序盤原田は10数名の先頭集団の後方を走りレース

を進めるが、7kmを超えたあたりで先頭集団から離れた。その後はほぼ単独走を続け19位でゴールした。得点という目標には届かず、関西インカレで戦うことの厳しさを実感するレースであったが、最後まで諦めず粘り強く走る原田の姿にはチーフとしての意地を感じた。レースとしては得点を稼ぐと予想されていた立命館大、京産大が点を落とし、逆に大阪大、びわスポ大などが点を拾う結果となった(清水厚)。

↓懸命に前を追う原田(4)



・第二日目 5月9日(木)

女子 400m 予選 (6-2+4)

後藤 加奈 (4) 4組6着 1:00.59

予選4組には、後藤(4)が出場した。冬季に改良したスタートで7レーンから積極的な走りを見せたものの、200m付近で前から遅れ始めた。ラストも粘ったが及ばず、組6着で目標としていた準決勝進出はなかった(西川)。

男子 400m 予選 (4-1+4)

浅井 良 (3) 1組2着 47.64 q

小谷 哲 (4) 4組2着 47.60 q

予選1組には浅井(3)が出場した。スタートから浅井の1つ内のレーンの近大・河内が詰めてきたが300m付近までは先頭争いをしていった。ラスト100mで河内がとび出したがそれにくraitsついていき、2着でフィニッシュした。タイムによって決勝進出をきめた。予選4組には小谷(4)が出場した。スタートから快調に飛ばし、ラスト100mを先頭で通過した。しかしそこから内側のレーンの立命館大・小原が追い上げて小谷を追い抜き、小谷は2着でフィニッシュした。タイムによって決勝進出を決めた(武波)。

男子 100m 予選 (4-3+4)

澤 薫 (M2) 1組6着
10.74(0.0)

加藤 寿昂 (3) 4組3着

10.53(+1.6) Q 自己新
全カレB標準突破

予選1組には澤(M2)が出場した。前半スタートで少し遅れ、後半追い上げるも組6着でゴール。調子は上がってきておりシーズンベストの好タイムではあったが惜しくも準決勝進出はなかった。予選4組には加藤(3)が出場した。前半は一列に並んだ接戦となるが、今シーズン好調の加藤は持ち前の後半の強さと勝負強さで接戦の中、組3着でゴールしPBで予選を抜け準決勝に進出を決めた(太田)。

男子 110mH 予選 (3-2+2)

小野 貴裕 (4) 3組7着 15.17(-1.2)

男子110mH予選には小野(4)が出場した。目標は15秒の壁を破り、14"85を出すことであった。スタートは勢いよく飛び出したが、2台目でややハードルをかすめてしまったせいか、4台目以降徐々に離され、後半に失速した。目標である14秒台に到達せず、悔しい結果となった(鄭)。

女子 4×100mR 予選 (3-2+2)

奥村-後藤-花房-西川 1組6着 52.47

女子4×100mR予選には奥村(2)、後藤(4)、花房(3)、西川(2)が出場した。目標は51.50切りと和歌山大に勝つこと。しかし流石は関西インカレと言ったところか1走、2走と少しずつ他大に離されていってしまう。また、2-3走のバトンパスが詰ま

ってしまい3走がスピードに乗るまでに時間がかかってしまった。3-4走はうまくバトンを繋ぐも結果は52.47。和歌山大は48.93という好記録を出し目標達成はならなかった。しかし2回生が2人ということもありまだまだ伸び代はあり今後に期待である(酒井)。

↓精一杯の力走をみせた
女子4×100mR(後藤(4)奥村(2))



男子4×100mR 予選 (2-3+2)

田中大-加藤-藤田-澤 2組 DNF

男子4×100mRには、田中大(2)-加藤(3)-藤田(2)-澤(M2)が出場した。1走の田中は好スタートを決め、関西1部の並み居る強豪たちと遜色ない走りを見せた。2走加藤は、100mの予選の後であったが、疲れを感じさせない快走。エースの実力を示した。しかし2走加藤から3走藤田へのバトンパスが繋がらず、ここで無念のDNFとなった。4走に控えていた澤も100m予選で復活を窺わせる好走を見せ、予選の着順通過ないし、タイムでの決勝進出も見えていたうえ、事前ランキングでは得点が期待されていただけに非常に悔しい結果となった。それでも若いチームであるので、ぜひ

この悔しさを次につなげたいところである(鈴木)。

男子10000m 決勝

1位 石井 優樹(関西学院大4) 30:57.79

2位 宮崎 勇樹(びわスポ大3) 30:59.53

3位 岡田 浩平(立命館大3) 31:00.93

19位 柴田 裕平(京都大M2) 32:11.94

男子10000mには柴田(M2)が出場した。原田(4)は怪我のため欠場した。スタート直後から関学の選手がスローペースで引っ張り、柴田はしばらく集団の外側で様子を伺う。1000mを過ぎてペースが上がると柴田は集団後方に落ち着く。3000m手前で龍谷の選手が1人遅れるが、それ以外は1つの大集団のままレースが進む。3000m過ぎで柴田は近大の選手と接触し、バランスを崩すが粘って集団から遅れず走る。関学の石井などがペースを揺さぶり続けるが集団は割れず、7000m手前のペースアップでようやく集団がばらけ始め、間もなく柴田は集団から遅れ始める。そこからはペースも落ち、苦しそうな表情を見せながら19位でゴールした。柴田は10000mでの4度目の正直を誓ったがまたも跳ね返された。来週に控える5000mと3000mSCで悔しさを晴らしたい(高木)。

男子棒高跳決勝

1 位	三戸田 湧司(関西学院大 1)	5m10
2 位	奥村 拓真(びわスポ大 3)	4m80
3 位	井上 貴明(関西学院大 3)	4m80
14 位	珍坂 涼太(京都大 M2)	4m20
16 位	平島 敬也(京都大 4)	4m00

男子棒高跳には、珍坂(M2)と平島(4)が出場した。今試合では最初の高さが 4m00 であった。平島は 4m00 から開始し、1 本目できっちり成功させた。4m20 は、1、2 本目は高さは出ていたものの、空中で流れてしまい失敗。3 本目は突っ込みが少し潰れてしまい、高さが出せずに失敗となり、記録は 4m00 であった。珍坂は 4m20 から開始した。1 本目、ポールが柔らかく失敗したものの、2 本目ポールの硬さを上げ、しっかり対応してクリアした。4m40 は、助走が近めだったものの突っ込みは潰れなかったが、全体的にポールが進みすぎてしまい、クリアはならず、記録は 4m20 となった(黒川)。

男子ハンマー投げ決勝

1 位	吉野 健太郎(大阪体育大 M2)	66m44	NGR
2 位	松田 直哉(京都産業大 3)	58m84	
3 位	豊山 宇宙(大阪体育大 4)	57m18	

11 位 三谷 圭(京都大 4)

47m44 自己新

男子ハンマー投には三谷(4)が出場した。一投目は 47m26 と、従来の PB である 46m59 を更新し、勢いに乗る。二投目はファールとなったが、三投目には 47m44 と更に PB を更新した。しかし、目標としていた入賞ラインの 53m10 は少し遠く、結果は 11 位と悔しい想いをした。入賞こそならなかったものの、納得のいく投擲ができていないなかで自己新記録を出したことを考慮すれば、地力がついたと言える。技術に更なる磨きをかけてもらい、七大会、東大会のハンマー投の 2 連覇等、今後の活躍に期待したい(足立舜)。

↓ 力投をみせた三谷(4)



男子十種競技決勝(前半)

松井 そら(京都大 4)	3214 点(暫定 9 位)	自己新
100m	11.58(+0.1)	736 点
400m	53.22	672 点 大学新
走幅跳	6m71(+1.9)	746 点 自己新

走高跳 1m70 544 点

砲丸投 10m51 516 点

男子十種競技には松井(4)が出場した。事前のランキングでは9位だった。最初の種目である100mではPB付近の好記録を出し、いいスタートを切った。走り幅跳びでは1回目の試技で6m71と大きくPBを更新し、十種競技のPBを出した昨年の種目別の走り幅跳びと比較して100点程伸ばすことに成功した。得意の砲丸投げでもきっちり10m51を残し、走り高跳びでも1m70を跳んで、どの種目でも失敗しない強さを見せた。1日目の最終種目である400mでも大学ベストを更新し、いい流れで1日目を終えた。1日目で3200点を超えたものの、周りのパフォーマンスも良く、全体の9位につけた(川井景)。

対校得点(二日目終了時点)

男子一部総合得点

第1位	関西学院大	34 点
第2位	びわスポ大	31.7 点
第3位	大阪体育大	30.9 点
	京都大	0 点

女子総合得点

第1位	立命館大	17.5 点
第2位	園田学園女大	13.5 点
第3位	京都産業大	13 点
	京都大	0 点

・第三日目 5月10日(金)

男子100m 準決勝 (2-4)

加藤 寿昂 (3) 2組6着 10.59(-0.1)

男子100m 準決勝には加藤(3)が出場した。スタートは上手く出たものの40m付近で他選手に先行されてしまう。後半必死に追い上げ、一時は先行された他選手と横一線でゴールした。PB付近のタイムではあるものの、惜しくも100分の2秒差で6着となった(湯谷)。



↑素晴らしい走りをみせた加藤(3)

男子1500m 予選 (2-4+4)

木村 佑 (3) 1組1着 3:57.07 Q

清原 陸 (3) 1組5着 3:57.96 q

岡野 颯斗 (M3) 2組3着
3:54.35 Q

1組には木村(3)と清原(3)が出場した。レースは序盤先頭が入れ替わりながらもひとかたまりの集団で進む展開になり、木村と清原は最後尾付近に位置した。500m付近で集団が縦に広がり始め、800m付近までに木村が集団中ほどまで位置をあげる。そこから

ラスト 1 周に到達する所までで激しい位置取り争いが行われ、木村、清原も先頭集団の中程から後方に付けた。ラスト 1 周で激しいペースアップが起こり、木村は順調に順位を上げていき、最後は周りを見ながら 1 着で予選を通過した。一方清原は先頭から 1 度は離されたものの、懸命なラストスパートで順位を上げ 5 着に入り、レース後、タイムにより決勝進出を勝ち取った。2 組には岡野(M3)が出場した。レースは序盤から京産大・本井が先頭で引っ張るハイペースな展開となり、岡野は 5 番手辺りに付ける。800m 付近から集団が前後に分かれるも、岡野は先頭の 5 人の集団内に位置した。ラスト 1 周で本井が抜け出し、残り 4 人で順位を争った中、スパートで岡野が 3 着に入り、着順での決勝進出を決めた。結果として 3 名全員での決勝進出となった(鶴見)。

男子 400m 決勝

- 1 位 河内 光起(近畿大 4) 46.24
- 2 位 佐藤 弘樹(大阪大 M2) 46.99
- 3 位 小原 吏貴(立命館大 4) 47.13
- 4 位 浅井 良(京都大 3) 47.35
自己新 個人選手権標準突破
- 5 位 小谷 哲(京都大 4) 47.40

男子 400m 決勝には小谷(4)、浅井(3)が出場した。スタートすると小谷、浅井は共に積極的なレースを展開した。小谷がやや浅井に先行し、関学大片山、近畿大河内に次

ぐ 3 位付近で前半の 200m を走った。その後、コーナーに差し掛かると徐々に大阪大佐藤が順位を上げ、2 位に。小谷と浅井は、前半飛ばしたものの失速した関学大片山、猛追を見せる立命館大小原と横並びでホームストレートに差し掛かった。そのまま片山は遅れ、小原には離されたものの小谷、浅井は競り合いながらゴールし、4 位と 5 位を死守した。2 名とも PB を 0.2 秒以上更新する会心の走りを見せ、チームに多大な得点をもたらした(前田朝)。

↓大量得点をもたらした小谷(4)浅井(3)



男子 1500m 決勝

- 1 位 本井 義明(京都産業大 4) 3:51.57
- 2 位 木村 佑(京都大 3) 3:53.62
- 3 位 藤本 浩太郎(関西学院大 2) 3:54.79
- 6 位 清原 陸(京都大 3) 3:59.71
- 12 位 岡野 颯斗(京都大 M3) 4:17.20

男子 1500m 決勝には岡野(M3)木村(3)清原(3)の 3 名が出場した。レースは序盤、

先頭の牽制によりスローで進行するかに見えたが 200m 地点手前で京産大の本井選手が先頭に出てペースを上げ 400m を 64 秒で通過。岡野は集団中盤から、木村と清原は最後尾からレースを進めることになる。その後もペースを上げる先頭に対し木村と清原はじわじわと順位をあげ木村は 3 番手、清原は 8 番手でラスト 1 周を迎えた。木村は本井選手には敗れはしたもののそれ以外には力の差を示し 2 位でゴール。清原も 6,7,8 位の集団の争いを気持ちで制し 6 位でゴールした。岡野は中盤以降集団についていけず悔しいレースとなってしまったが、京大はこの競技で 10 点を獲得した(中尾)。

↓勝負強さをみせた清原(3)



男子三段跳決勝

- 1 位 楠本 政明(びわスポ大 3) 15m49(+1.9)
- 2 位 相川 亮洋(関西大 3) 15m35(+1.5)
- 3 位 林 冨唯正(同志社大 4) 15m31(+0.9)

- 6 位 三神 惇志(京都大 4) 15m00(+1.5)

男子三段跳びには三神 (4) が出場した。事前ランキングが上位の選手が記録を残せない中、一回目に 14m42 で同率 4 位、二回目に 15m00 で 5 位につけるなど、序盤から SB を大幅に更新する跳躍で TOP8 に残った。その後記録を伸ばすことができず 6 位で競技を終えたが、事前ランキングを覆して得点するという主将としてチームを大きく勢いづける活躍をした(木野村)。



↑ランキングを覆し 6 位入賞した三神(4)

女子やり投決勝

- 1 位 武本 紗栄(大阪体育大 2) 53m68
- 2 位 栞原 千賀子(園田学園女大 2) 50m36
- 3 位 野下 ちはる(大阪体育大学 3) 50m01
- 7 位 中野 水貴(京都大 3) 45m30

女子やり投には中野(3)が出場した。一投目は 44m32 であった。二投目は 45m30 をマークし、三投目終了時点で 6 位につけ、

TOP8 進出を果たした。四投目で 45m05 を出し再度 45m を超えるなど、安定した投擲を見せるも、四投目までは中野が勝っていたびわこ成蹊スポーツ大学の三回生が 45m55 の記録を五投目でマークし、中野を上回った。中野は五投目、六投目でこの記録を超えられず、7 位で終了した。事前ランキングで 9 位であったが、ランキングを 2 つ覆し、2 点を獲得した(奥村)。

↓見事入賞を果たした中野(3)



男子十種競技決勝(後半)

1 位	別宮 拓実(同志社大 4)	7269 点
2 位	黒田 貴稔(びわスポ大 M2)	7167 点
3 位	広野 翔大(関西学院大 4)	6655 点
9 位	松井 そら(京都大 4)	6082 点
	自己新 西日本インカレ B 標準突破	
110mH	16.20(+0.8)	710 点
円盤投	29m26	450 点
棒高跳	3m40	457 点 自己新
やり投	51m43	610 点

1500m 4:46.37 641 点 大学新

1 日目に幅跳びなどで好記録を残し、良い流れの中で迎えた 2 日目。午前の 110mH、円盤投ではともにシーズンベストを記録する。棒高跳では最初の数本で少し苦戦はしたものの、徐々に調子を取り戻し、見事に 3m40 の自己ベストを叩き出した。さらに続くやり投では全体 4 位となる 51m43 の好記録を残した。この日行われる競技日程の中で最後となった 1500m では、4:46.37 の大学新で走り、2 日間にわたる全十種の競技を終えた。総合得点は西カレ B 標準を突破する自己ベストの 6082 点であったが、総合順位は 8 位と 37 点差の 9 位におわり、惜しくも得点とはならなかった。しかし、健闘する副将の姿はチームに大きな勇気を与え、関西インカレ 4 日目以降の戦いにつながる内容となった(泉)。



↑部に大きな勢いを与えた松井(4)

対校得点 (三日目終了時点)

男子一部総合得点

第 1 位	関西学院大	76 点
第 2 位	びわスポ大	64.7 点

第3位	立命館大	53点
第9位	京都大	22点

女子総合得点

第1位	立命館大	63.5点
第2位	大阪成蹊大	48点
第3位	園田学園女大	42.5点
第22位	京都大	2点

・第四日目 5月18日 (土)

女子200m 予選 (6-2+4)

後藤 加奈 (4) 3組6着 27.01(-1.7)

女子200m 予選には後藤(4)が出場した。前半出遅れ8番手になってしまったが、後半は短長選手の意地を見せ、前の2人を抜いて6着でゴールした。これは向かい風でなければPBであったタイムであり、昨年からの成長が感じられた(森本)。

男子200m 予選 (4-3+4)

加藤 寿昂 (3) 2組5着 22.28(-2.7)

男子200m 予選には加藤(3)が出場した。春先にこの種目で大幅にPBを更新した加藤は準決勝進出を目標としていた。最初のコーナーはうまくスピードに乗ったものの、コーナーを出たあたりで、前4人と徐々に離された。粘りの走りを見せるも5着。悔しい結果となったが、今後のさらなる飛躍に期待したい(鄭)。

女子800m 予選 (6-2+4)

西川 真悠 (2) 2組4着 2:22.65

女子800m 予選には西川(2)が出場した。1周目は様子を見ながら集団の最後方につける。2周目に入ったところで西川はペースアップして順位を上げるが、その間に先頭集団の3人とはじりじり離れていき、バックストレートで懸命に追うも差は詰まらず、ラストは後ろの選手が追い上げてきたが逃げ切って4着でゴールした。資格記録が2'02の立命館・塩見が欠場し、準決勝進出も狙えただけに悔しい結果となった(高木)。

男子800m 予選 (3-2+2)

木村 佑 (3) 1組3着 1:51.93 q

土屋 維智彦 (4) 2組7着
1:59.02

中尾 友哉 (2) 3組8着
1:58.35

男子800m 予選には1組に木村(3)、2組に土屋(4)、3組に中尾(2)が出場。今年もハイレベルな戦いとなることが予想された。1組目の木村はスタート後集団の最後尾につけ、2周目のバックストレートで一気に順位を上げる木村の代名詞とも言えるレース展開を見せ、先頭2人とは少し離され着順での決勝進出は逃したもののプラスの1位で決勝へ進出し、昨年の雪辱を果たした。2組の土屋は怪我が心配されたがなんとか出場することが出来た。土屋も1周目は最後尾につけ2周目のバックストレートで仕掛けるも怪我の影響により本来の力を

発揮できず組7着でゴールした。本来の力が出せたら決勝も視野に入れることが出来ただけに悔しい走りとなったが、それでもパートチーフとしての意地を見せ最後まで走り抜いてくれた。3組目の中尾は初めての関西インカレであり、格上相手との勝負となったがハイペースとなったにもかかわらず前半から果敢に先頭集団についていく。2周目に入り疲れが見え始め苦しい走りとなるが、粘りの走りを見せ組8着となった。悔しい結果となったが、今年の経験が来年以降の糧となるだろう(乙守)。

女子4×400mR 予選 (3-2+2)

後藤-西川-奥村-安藤百 1組6着

4:14.54

女子4×400mR 予選には、後藤(4)、西川(2)、奥村(2)、安藤(3)が出場した。一走の後藤は200mに続いてこの日2本目のレースとなったが粘りの走りを見せ、強豪ひしめく中5位付近でバトンを2走に繋いだ。同じく800mに続きこの日2本目となった西川は前半で他校に離され、その後3走の奥村、4走の安藤ともに前に大きく離される苦しい展開となり、6位でのゴールとなった。花房(3)の怪我の影響でオーダーを変更して臨んだが、目標としていた4分10秒には届かなかった。今後の記録向上に期待したい(犀川)。

男子4×400mR 予選 (2-3+2)

小谷-小原-田中-浅井 1組1着

3:13.03 Q

男子4×400mRには小谷(4)、小原(4)、田中(4)、浅井(3)が出場した。1走の小谷は前半あまりふるわなかったが、後半で伸びを見せ、1番手でバトンパスをした。2走の小原は前半出遅れ、5番手まで落としたものの、もちまえの後半の走力で3番手まで追いつけた。3走の田中は最後まで粘り強い走りを見せ、3番手でバトンを渡した。4走の浅井はバックストレートで大阪大学と近畿大学を追い抜き1着でゴールした(森本)。



↑着実に決勝へ男子4×400mR(小原(4))

男子5000m 決勝

- | | | |
|-----|---------------|----------|
| 1位 | 石井 優樹(関西学院大4) | 14:19.23 |
| 2位 | 上田 颯汰(関西学院大1) | 14:20.97 |
| 3位 | 大坂 祐輝(大阪体育大3) | 14:21.16 |
| 22位 | 久田 雅人(京都大3) | 15:37.40 |

5000mには久田(3)が出場した。最初の1000mは、大集団の先頭から後方までの

ほとんどの選手が2'40"/kmで通過するハイペースなレースとなった。その後集団は縦に伸び、2000mあたりから久田は先頭集団から離されていった。2000m以降はラップタイムを大きく落とし最後尾を走り22位でゴールした。久田は、終始ハイペースで進んだ激しいスピードレースの中でも上を目指し攻めの走りを見せたが、実力が及ばず悔しい結果となった。また、柴田(M2)は棄権した(清水厚)。

男子走幅跳決勝

- | | | |
|-----|---------------|------------|
| 1位 | 遠藤 泰司(立命館大4) | 7m78(+1.8) |
| 2位 | 吉田 弘道(立命館大2) | 7m65(+1.9) |
| 3位 | 足達 一馬(関西学院大4) | 7m61(+1.8) |
| 15位 | 本居 和弘(京都大4) | 6m90(+1.4) |

男子走幅跳決勝には本居(4)が出場した。追い風が強く、また風速にムラがありファウルが多く見られた中、一本目は6m80(+0.6)で、しっかり記録を残した。しかし2本目で助走中に足を攣ってしまい、記録なしとなった。3本目では立て直して6m90(+1.4)と記録を更新できたが、TOP8のラインは7m27で、得点には今一步届かなかった(松原)。

女子円盤投決勝

- | | | |
|----|---------------|-------|
| 1位 | 渡辺 七海(大阪体育大3) | 43m62 |
|----|---------------|-------|

- | | | |
|----|-------------|-------|
| 2位 | 石川 京奈(天理大4) | 42m28 |
|----|-------------|-------|

- | | | |
|----|---------------|-------|
| 3位 | 影山 絢香(大阪体育大4) | 39m75 |
|----|---------------|-------|

- | | | |
|-----|--------------|-------|
| 10位 | 横山 優花(京都大M1) | 36m51 |
|-----|--------------|-------|

女子円盤投には横山(M1)が出場した。1投目、力強い投げを見せSBである36m51をマーク。1投目終了時点では7位につける。2投目、少しバランスを崩し34m26の投擲。3投目は力んでしまったのか、右横にそれてファールとなる。3投目終了時点で総合10位となり、TOP8に残ることはできなかった。自己ベストタイの記録を出せていたら目標である6位に届いただけに、悔しい結果となった(藤本)。



↑女子チームの期待を背負った横山(M1)

男子円盤投決勝

- | | | |
|----|--------------|-------|
| 1位 | 岡崎 一輝(立命館大4) | 49m53 |
| 2位 | 北村 将也(同志社大3) | 46m23 |
| 3位 | 大橋 悟(京都大4) | 45m23 |

男子円盤投には大橋(4)が出場した。大橋は練習から好調であり、2年連続の表彰台、さらに全カレB標準である47mの突

破が期待された。ところが一投目で39m65、2投目がファウルと力みからかかのような記録を残せない。そこからは3投目でしっかりと決勝に進出し、5投目で45m23の記録を出して3位に入って6点を獲得した。今回の結果は全カレを目指して練習に取り組んできた本人からすると満足のものではなかったかもしれない。しかし、追い込まれた状況から見事に逆転して表彰台に上がったことは見事であり、チームを目標の達成に向けて大きく勢いづけるものであった(山野)。

↓ランキング通り3位を死守した大橋(4)



対校得点 (四日目終了時点)

男子一部総合得点

第1位	関西学院大	102点
第2位	立命館大	86点
第3位	びわスポ大	68.7点
第9位	京都大	28点

女子総合得点

第1位	立命館大	74.53点
第2位	大阪体育大	55.33点
第3位	大阪成蹊大	51点

第24位	京都大	2点
------	-----	----

・第五日目 5月19日 (日)

男子 10000mW 決勝

1位 塩屋 陸(びわスポ大 4) 41:37.46

2位 森田 靖(龍谷大 4) 41:42.92

3位 石田 昂(立命館大 2) 41:45.87

10位 亀田 孝太郎(京都大 4) 44:06.10

馬淵 丈(京都大 2) DQ

平岡 拓(京都大 2) DQ

男子 10000mW には亀田 (4)、馬淵 (2)、平岡 (2) が出場した。事前ランキングで7位であった亀田は中盤までは先頭集団につけていたが、後半は集団から離され、最後ペースを上げるも及ばず10位でゴールした。馬淵は序盤から先頭集団についていくなど積極的なレースをしたが、フォームが崩れてしまい失格となった。平岡も事前ランキングでは他の選手と差がある中で精一杯のレースをしたが、途中で失格となった。残念な結果に終わったが、今後の競歩パートの躍進を感じさせる積極的なレースであった(木野村)。



↑最後まで懸命に8位を追った亀田(4)

男子 800m 決勝

- | | | |
|-----|-----------------|---------|
| 1 位 | 三木 秀人(近畿大 2) | 1:51.73 |
| 2 位 | 一ノ宮 健郎(関西学院大 2) | 1:52.76 |
| 3 位 | 花村 拓人(関西学院大 4) | 1:52.81 |
| 4 位 | 木村 佑(京都大 3) | 1:53.81 |

男子 800m 決勝には木村(3)が出場した。資格記録、予選の結果を見ても上位陣はかなり強く、木村はチャレンジャーとして挑むレースだった。レースは1周目を58秒で通過するスローペースで木村は予選同様集団の最後尾に位置した。2周目に入り、近畿大・三木が飛び出したのを皮切りに集団がばらけ出し、木村はバックストレートでペースを上げて5位に浮上した。ラストは必死の走りで前方の選手を追い掛けゴール直前で抜いて4位でゴールした。ランキングをひっくり返して5点を獲得し、京大中距離のエースにふさわしい走りを見せてくれた(乙守)。



↑2種目で大量得点を果たした木村(3)

男子 3000mSC 決勝

- | | | |
|-----|----------------|-------------|
| 1 位 | 山田 光希(同志社大 4) | 9:06.85 |
| 2 位 | 大坂 祐輝(大阪体育大 3) | 9:11.91 |
| 3 位 | 沖見 史哉(関西学院大 3) | 9:14.04 |
| 7 位 | 足立 舜(京都大 2) | 9:25.90 大学新 |
| 9 位 | 柴田 裕平(京都大 M2) | 9:36.97 自己新 |

京大からは柴田(M2)と足立(2)が出場した。上位をとるであろうと予想されていた選手が調子を落としていたこともあり、序盤から飛び出す選手は見られず序盤は比較的穏やかにレースが進む。足立は集団の前方、柴田は後方につける。1000m 手前あたりで集団がばらけ始めたところに柴田も離れ、苦しい展開となる。足立は先頭集団からやや遅れて3'01で1000mを通過、その後もペースを維持し得点圏内でレースを進める。2000mを過ぎたあたりからペースが落ちながらもなんとか耐え、7位でフィニ

ッシュし見事入賞。一方柴田は中盤から苦しい走りになりながらも最後は意地のラストスパートを見せ、9位でフィニッシュ。最終日で京大の目標達成が見えてきてプレッシャーがかかる中で、大いにスタンドを沸かせるレースとなった(吉村)。



↑ 得点の期待に見事応えた足立(2)

男子 4×400mR 決勝

1 位 大阪大(佐藤-平松-長-志賀) 3:09.81

2 位 京都大(小谷-小原-田中智-浅井)
3:10.32 京大新

3 位 立命館大(大村-小原-富田-篠原)
3:10.34

4×400m リレーには小谷(4)-小原(4)-田中(4)-浅井(3)が出場した。1 走の小谷は前半飛び抜けた 1 つ外の阪大にペースを乱さないようついて行くレースになった。後半の粘り強い走りで追い上げ、トップの阪大に僅差のところまでバトンを小原に渡した。小原は前半 2 位の位置でオープンレーンに入ったが、後半各校のエースに抜かされ、6 位でバトンを田中に繋いだ。前を走る 5 チームについて行くレース展開となる。最後まで離されることなくラップ 47 秒台の好

タイムで 4 走の浅井にバトンを繋いだ。浅井は 6 位でのスタートになったが、最初からスピードを上げ、バックストレートで 3 人を抜き 3 位に順位をあげ、ラストでは前半抑えていた阪大に抜かれるが、前にいた立命館と関学を最後に抜かしラップ 46 秒台の見事な走りで 2 着でゴール。関西インカレラスト種目であり、目標の 40 点がかかった中、ランキングを大きく覆す熱いレースを見せてくれた(太田)。

↓ 気迫の走り男子 4×400mR(田中智(4))



男子走高跳決勝

1 位 大西 健介(立命館大 3) 2m16

2 位 藤田 溪太郎(立命館大 3) 2m16

3 位 東 直輝(立命館大 2) 2m13

7 位 阪口 裕飛(京都大 2) 2m00

男子走高跳には阪口(2)が出場した。強風が吹き多くの選手が苦戦する中、1m95 から試技を開始し 1 回目でクリア。2m00 も 1 回目で確実にクリアし、試技数の差で 7 位入賞を決めた。惜しくも 2m05 のクリアはならなかったものの、ランキングを覆して得点を取る勝負強さを見せた(仲村)。

↓勝ちきる力を見せつけた阪口(2)



男子やり投決勝

1 位 坂本 達哉(大阪体育大 M1)

72m91

2 位 石坂 力成(大阪体育大 4) 71m87

3 位 久保 大暉(関西大 4) 68m56

14 位 澤田 剛(京都大 3)

58m92 自己新

16 位 浅野 智司(京都大 M2)

53m57

5 日目男子やり投には浅野(M2)、澤田(3)が出場した。少し風が強いコンディションの中であった。浅野は最後の関西インカレであり意気込みも強かったが本調子ではなく、53m57 という結果に終わった。澤田は昨年の肘のケガから復帰してこの関西インカレまで練習を積み三投目で自己ベストとなる 58m92 をマークした。だが二人とも TOP8 出場ラインである 64m37 には届かず、浅野は 16 位、澤田は 14 位となり、悔しい結果に終わった(田中大)。

4. 新入生名簿

氏名	フリガナ	学部 学科	出身高校(都道府 県)	パート	種目	PB
<1 回生>						
荒井 優志	アライ ユウシ	農・資源	新潟(新潟)	トレーナー		
池田 尚平	イケダ ショウヘイ	文	堀川(京都)	競歩	5000mW	22'59"
石川 結麻	イシカワ ユマ	農・食環	暁の星(広島)	マネージャー		
小西 菜月	コニシ ナツキ	医・人健	京都工学院(京都)	混成	七種競技	3494 点
坂本 璃月	サカモト リツキ	理	新宿(東京)	跳躍	走幅跳	6m73
佐藤 巧実	サトウ タクマ	薬	八戸(青森)	長距離	5000m	15'40"
鈴木 綾奈	スズキ リョウナ	京女	時習館(愛知)	ハードル	100mH	15"22
高橋 惇寿	タカハシ アツトシ	法	大垣北(岐阜)	短短	100m	11"62
高橋 侃凱	タカハシ ヤストキ	理	東海(愛知)	長距離		
田中 宏樹	タナカ ヒロキ	農・応生	済々黌(熊本)	ハードル	400mH	52"67
中野 紗希	ナカノ サキ	京女	千種(愛知)	中距離	3000m	9'43"
中村 鮎夢	ナカムラ アユム	法	松山東(愛媛)	ハードル	110mH	15"62
藤本 のどか	フジモト ノドカ	医・人健	北野(大阪)	中距離	1500m	4'56"
松岡 健	マツオカ ツヨシ	法	開明(大阪)	中距離	1500m	4'45"
眞鍋 聡志	マナベ サトシ	工・工化	今治西(愛媛)	投擲	砲丸投 円盤投	13m90 40m89
室 和希	ムロ カズキ	工・工化	帝塚山(奈良)	短短	200m	21"86
山口 佐助	ヤマグチ サスケ	文	高松(香川)	中距離	800m	1'58"44
山田 大智	ヤマダ ダイチ	工・地球工	横浜翠嵐(神奈川)	中距離	800m	1'58"90
吉田 悠樹	ヨシダ ユウキ	工・地球工	藤島(福井)	短短	100m	10"65
<3 回生>						
坂本 莉奈	サカモト リナ	京女	神戸(兵庫)	跳躍	100m 走幅跳	13"06 5m40
<M1 回生>						
岩松 尚杜	イワマツ ナオト	エネ科	奈良(奈良)	短長	400m	49"42

5. 関西インカレ OB 様名簿

三島 宏夫 様 (S35)

市川 哲 様 (S38)

鯉谷 忠夫 様 (S41)

藤原 忠義 様 (S41)

森本 正幸 様 (S41)

山本 和賢 様 (S43)

勝村 弘也 様 (S44)

染川 武博 様 (S45)

津野 洋 様 (S45)

中村 茂夫 様 (S48)

池本 忠司 様 (S49)

桂 総一郎 様 (S51)

宮下 欣二 様 (S51)

真野 勝文 様 (S53)

三好 稔彦 様 (S54)

北村 公亮 様 (S55)

熊谷 元 様 (S59)

安藤 信夫 様 (S61)

渡辺 力 様 (S62)

渡辺 美根 様 (S62)

櫻井 研吾 様 (H22)

山瀬 康平 様 (H23)

櫻井 優 様 (H25)

山瀬 憲代 様 (H25)

宮崎 伶菜 様 (H27)

岡本 和晃 様 (H28)

下迫田 啓太 様 (H28)

寶 雄也 様 (H28)

平井 健太郎 様 (H28)

紀平 直人 様 (H29)

久米 祐輔 様 (H29)

備藤 翼 様 (H29)

松下 隼人 様 (H29)

大和 祐己 様 (H29)

井上 裕美子 様 (H30)

岡本 萌巴美 様 (H30)

金子 溪人 様 (H30)

岸本 絵理 様 (H30)

坂口 雄太 様 (H30)

谷口 博紀 様 (H31)

富田 有希 様 (H30)

平田 泰行 様 (H31)

山下 弘輝 様 (H30)

山川 典恵 様 (H31)

岡本 和也 様 (H31)

中野 克哉 様

小野 萌子 様 (H31)

大下 拓真 様

神先 宏樹 様 (H31)

田中 仁 様

澤 なつ香 様 (H31)

菅野 紗希 様 (H31)

計 112 名にのぼる OB・OG のみなさまに
応援にお越し頂きました。ご多忙の中足を
運んでくださり誠にありがとうございました。

高野 圭太 様 (H31)

田中 達也 様 (H31)

6. 記録会等の結果

第 53 回織田幹雄記念国際陸上競技大会

平成 31 年 4 月 27 日(土)
広島県広域公園陸上競技場

▼男子 100m				
加藤 寿昂		10"69	+1.3	

2019 年度大阪市体育協会会長杯大阪陸上カーニバル

平成 31 年 4 月 28 日(日)
ヤンマーフィールド長居

▼男子走幅跳				
本居 和弘		6m76	+1.5	

第 24 回富山カップ陸上競技大会

令和元年 5 月 3 日(金)
富山県総合運動公園陸上競技場

▼男子走幅跳				
村田 憧哉		6m77	+0.1	大学新

2019 年度奈良県陸上競技選手権大会

令和元年 5 月 4 日(土)、5 日(日)
奈良市鴻ノ池陸上競技場

▼男子 400m			
岩松 尚杜		50"94	
▼男子 3000mSC			
柴田 裕平		9'41"28	
▼男子十種競技			
平島 敬也		5671 点	
100m		11"37	-0.6
400m		54"98	
1500m		5'30"24	
110mH		16"87	-0.6
走高跳		1m74	

棒高跳		3m90	
走幅跳		6m29	+0.4
円盤投		29m64	
砲丸投		9m57	自己新
やり投		45m38	
五十嵐 隆皓		4945 点	
100m		11"86	-0.6
400m		52"58	
1500m		4'36"90	
110mH		16"37	-0.6
走高跳		1m71	
棒高跳		NM	
走幅跳		5m79	+0.4
円盤投		23m08	
砲丸投		7m96	
やり投		36m08	
▼女子円盤投			
横山 優花		35m63	
▼女子七種競技			
小西 菜月		2950 点	大学初
200m		29"79	+0.8
800m		2'46"34	大学初
100mH		17"00	+0.5
走高跳		1m43	大学初
走幅跳		4m31	-0.1
砲丸投		8m47	大学初
やり投		NM	大学初

第2回滋賀県高校記録会

令和元年5月4日(土)、5日(日)

皇子山総合運動公園陸上競技場

▼男子 100m				
田中 大智		10"96	+1.0	自己新
西脇 友哉		11"30	+1.7	
湯谷 樹生		11"39	0.0	
野田 真志		11"47	+0.8	自己新
数田 伸紀		11"72	-0.6	

芦田 開		11"78	+1.3	
▼男子 200m				
安藤 滉一		22"11	+0.7	
▼男子 400m				
松本 佳太		50"86		大学新
平野 亘		51"02		
前田 朝陽		51"99		
▼男子 400mH				
酒井 良佑		55"83		自己新
▼男子ハンマー投				
三谷 圭		41m81		
▼女子 800m				
安藤 百香		2'31"56		
▼女子砲丸投				
福井 優輝		8m96		



蒼穹 NEWS 令和元年度 第2号
令和元年5月26日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：犀川啓太・鈴木洋太郎・柳原拓海（副務）
特別協力：三田村侑紀・山口佳那子（学連員）
武波夏輝・藤田雄大（記録係）・浅井良（HP 係）
写真担当：鶴見薫樹・永田智季・平岡拓・吉井希祐

陸上競技部 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/
陸上競技部記録 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm
関西学連 HP	http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm
メールアドレス	liuyuantahai9@gmail.com （柳原）